

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

●100万人参観者運動を!

84年7月来館者数	4,465名
通算1カ月平均来館者数	4,943名
当月1日平均来館者数	172名
通算来館者数	484,385名

ドキュメンタリーを制作し続けて 『廃船』から今

工藤敏樹

われわれがその船に出会い、カメラを回し始めたのは、昭和41年秋、東京オリンピックの二年後、地下鉄や高速道路の工事が盛んに行なわれていた頃です。それは、「ある人生」というドキュメンタリー番組で、建設工用の資材を運ぶ小さな曳船の船長を取材していた時のことです。彼は、曳船の船長であると同時に、その船に寝泊まりしている水上生活者でもありました。われわれは、毎日、深川牡丹町から彼の船に乗り、真黒によごれた川や運河にかかる橋をくぐり抜けながら、東京を見上げていました。

そんなある日、彼がちょっとした入出物Vのことを聞きこんで来ました。「国有財産の船だが、官庁で使っていたから手入れはいいに違いない」というのです。われわれは、早速彼と一緒にその入出物Vを見に行きました。故障が目立ち、航行不能船とし

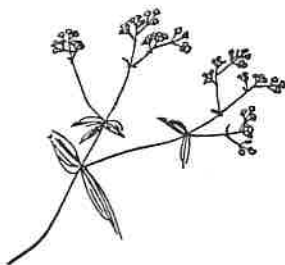
て東京水産大学の岸壁につながれていた練習船「はやぶさ丸」が、その船でした。但し、彼にとって八手入れがいに違くない出物Vとは、船体ではなく、エンジンや発電機であることがその時判りました。こうして被爆12年目の「第五福竜丸」の姿が番組の一シーンとして放送されたのが昭和41年12月24日のことです。原水爆禁止運動は低迷期にありました。われわれは「第五福竜丸」の取材を続けました。この船がどうなるか? この船をめぐって何が起るか、記録し続けました。

昭和43年3月1日、ビキニデー。NHKニュースは、夢の島14号地に移され、とりはずしたスクリーンの穴から入りこんだ汚水をたっぷり吸って傾きかけた船体を全国に伝えました。新聞の投書欄に様々な声や主張が乗りはじめました。募金運動も起ります。この間、スタッフは亡くなられた久保山さ

んの御家族と22名の乗組員をたずね、焼津から大阪、九州、屋久島までとびまわった。「第五福竜丸」を動かしていた250馬力のエンジンは「第三千代川丸」にとりつけられましたが、この船は三重県阿田和沖で濃霧の為座礁、間もなく船体はバラバラになり、エンジンは水中に没しました。

こうして「夢の島」をめぐるさまざまな出来事や人々を、三年間取材した第五福竜丸の記録『廃船』(90分)は、昭和44年3月、放送されました。

それから十数年後、当時のスタッフの一人は、世界の科学者の予見・警告を映像化したNHK特集「核戦争後の地球」制作の主要メンバーとして走り廻る日々が続きました。(NHK社会教養部)



来館者の 声から

今まで、文献やフィルムで戦争のこわさを感じていましたが、実際に被爆した第五福竜丸を目の前で見るとこわくてふるえが止まりません。と同時に、なぜ世界に核が(戦争のため)必要なのか、どうしても考えられない、私達はこれからも反戦平和、世界から核をなくす運動、もっともっとたくさんの人々にうたったえ続けていこうと決意しました(大阪手話アトム会)。



浦安高校生 (84.7.29)

第五福竜丸を
残してくれた
人たちに感謝
します(三重
県中一より)。
*
知らなかつ
た事実ばかり
で本当に驚き

原爆、水爆の恐怖をわずかながら見たような気がしました。生半可な気持ちではなく、真に平和を願える研究発表が出来そうです。文化祭の為の良い参考になりました。亡き人の御冥福を祈って(実践女子学園高校、社会研究部一同)。

ぼくは、こんな大きいふねが、なんでここにのかわからない(伊藤雅光)。

ビキニ島のこと、まだ、わたしの生まれていないときのことですが、第五福竜丸を見ていると、その時の事件が、ありとあらゆる

ました。美術が専門なので特に丸木美術館所蔵の絵の前(写真ですが)で、思わず立ちすくんでしまいました。また、その下にあったベン・シャーン(Shannon)の絵も深い意味があったのだなと思いました。戦争を知らない先生達の世代で子達たちに平和とは何かを訴えていくことは難しいことですが、歴史をバトンタッチするランナーとして今こそ、努力しなければならぬと決意を新たにしました(島根出雲一中 山岡晴夫)。

五月につづいて二度目の来館。今日は九月の文化祭に向けての映画どりをしました。同僚教師二人の協力もあり、順調に行きました。ご協力有難うございました(神奈川県立相武台高校、橋善男)。

第五福竜丸が被ばくしたのは、僕が小学一年のとき。好意により内部をみせてもらい、いたみのひどいにおどろきました。保存することが平和への運動となります。是非しっかり保存してほしいと思います(同右、山口光一)。

編 集 後 記

七月二六日、原水爆禁止世界大会に参加する都民生協の子ども代表団が訪れた。今年で三年目。世話役のお母さんたちの中にはすでに顔馴染みのお母さんもお母さんが「最後の子どもたち」という本を手にしていった。

「最後の子どもたち」。現地ドイツではすでに十万以上出ているというが、今日日本でも反核を願う人たちの間で読み広められている。

「ほんとうに文字どおり突然、核爆弾が落ちてきたのだ」――物語は十二歳の少年の目を通して淡々とすすんでいく。核戦争を阻止出来なかった大人たちへの、シェーベンボルン最後の子どもたち、の批判は痛烈だ。一読をすすめたい。

今月の巻頭言はNHKの工藤敏樹さんをお願いした。紙面の都合で「廃船」のみについて書いていただいた。八月四日、五日放映された「核戦争後の地球」については、別の機会にうかがいたいと思っています。

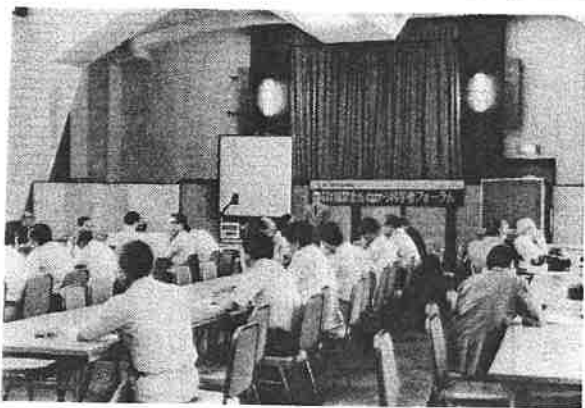
大分県保戸島小学校から手紙が届いた。紹介は次号で。(は)

ビキニ事件30周年 「科学者フォーラム」開催

核兵器禁止をねがい科学者集う

七月三〇日、東京・神田の学士会館で「核兵器禁止をねがい科学者フォーラム」が開かれた。ビキニ水爆被災三〇周年の今年は、第五福竜丸平和協会との共催で、科学者を中心に約八〇人が参加した。午前の部では、当時、国立東京第一病院で第五福竜丸乗組員の主治医として治療にあたった熊取敏之・放射線医学総合研究所所長、読売新聞社会部記者として俊鶴丸に乗船した加藤地三・昭和女子大の教授が「ビキニ事件をふりかえって」と題し、報告。

午後の部では、栗野鳳・日本平和学会会長が「ビキニ事件の歴史的な意味」を、大北威・広島大学



さわやかに高校生、自転車隊に、反核手話アトムの会。

七月の展示館

久保山碑を囲む夾竹桃が咲きはじめる。展示館はひとときわ熱っぽくなる。夏休みとなれば早朝から見学者がつつき冷房はきかない。そんな中、展示館からは海むこうの浦安高校（千葉）生が五、六人のグループを作り、連日数班、ノート片手に熱心に展示物に見入る。夏の宿題・学習報告のためとかで事件にかんするビデオも見、話しも聞き、ときには証拠写真ならぬ記念撮影のシャッターも頼まれる。神奈川相武台高校の先生は平和教材にと8ミリのまわし、新宿高

原爆放射線医学研究所教授と田中正・京都大学理学部教授が「ビキニ事件と今日の科学者の課題」と題して、報告した。

質疑、討論では「核戦争の危機が高まっている現在、核軍拡の実態をこれまで以上に、国民に知らせる努力をすると共に、我々科学者自身も勉強していかなければいけない」などの意見が出され、核兵器禁止をねがう意志を確認しあつた。

重、兵庫、奈良の代表団約千人が夜行バスのつかれもみせず早朝より見学「反核の決意を新たに」し、船の永久保存にと数万円のカンパを寄せた。各地で八月ひらかれる「平和のための戦争展」への協力も今年はとりわけ多く、京都、大阪、神奈川、埼玉など展示館を出て大漁旗ガイガーカウンター、写真パネルなどが展示された。

原水爆禁止世界大会を前に、夢の島から、群集の渦の銀輪隊が広島へ。また長崎からは長崎総合科学大学平和銀輪隊の松本・吉崎の二青年が往復二、七〇〇キロの片道を走破して夢の島に到着、交流した。同じ長崎の渡辺千恵子さんも車椅子にのって静かに船を見つめた。

近畿大学学生も

七月二七日、リュック姿の近畿大学理工学部の先生、学生二〇人が、原子力船むつ、の見学に行く途中、福竜丸を是非見たいと来館。先生のひとり、河合廣氏はビキニ事件当時、大阪市立大学に勤務、福竜丸の船内に入り、「死の灰」を収集し、大阪の魚市場で放射能測定をしたなど福竜丸とのかかわりを語られた。

歴史に残る船を創りたい

精密模型・設計の宮内晴美さんに聞く

八月十五日、敗戦記念日が近い。侵襲、三光、弾圧、空襲、焼土、疎開、引揚、死、飢餓、占領…そして太平洋のことを思う。

第五福竜丸展示館入口最初の大パネルは、手づくりの「航跡図」だが、ときおり地図の太平洋をなぞり、ここがミッドウエー、クエゼリン、ビキニ、エニウエトク、トラック、サイパン、テナアンと太平洋戦争激戦の島をたどりつつ、日米両軍兵士の死体累々たる地にアメリカは核実験場を設定しさらなる死を求めて爆発させ、いままた核基地を作りミサイルを打ちこむ、核戦略の拠点としているなどと話し合う。一九四六年七月ビキニ第一回第二回原爆実験には旧日本海軍の戦艦長門、巡洋艦酒匂も標的と爆発の威力を示す実験に使われたのです」とも。

そんな矢先七月末の暑い一日、突然に来客があり「連合艦隊って知っています？アレ作ったの私です。こんどは第五福竜丸を作りたいのです」。

宮内晴美さん。男性。四十五歳。「芸芸あるみ」の主宰者、品川区東大井にある精密模型工場の「工廠長兼設計主任兼職工」。模型といってもプラモデルや日曜大工的なものでなく、専門的な精密縮小模型のベテランである。

「誰にも心にいつも残っていることであるでしょう。戦争と共に、少年の日あった福竜丸被災が私にとって忘れられないことです。もう何百隻船の模型を作ったかわからないという宮内さんは『世界の艦船』などいくつかの船の専門雑誌、横浜や神戸の海洋博物館のリーフ、さらには海上自衛隊関係のパンフレットなどを示しながら、これは私の作品です。こちらが模型、こちらが本物の写真、そっくりでしようと笑う。同じ角度から撮ったそうであるほど船窓の小さな陰影まで同じ一枚の写真のプリントのようだ。七月末名古屋港に誕生した船の博物館の模型設計と展示を担当し帰京したばかりで仕事が一段落、念願の第五福

竜丸を訪ねたという。

模型づくりは、全部朴（ほお）の木を削り下ろし、窓は小刀でくりぬくという正確な水線モデルで完全無欠、実物どおりに艦装する。一隻に数カ月。

なかでもきわめつけは、先の「連合艦隊」で、大和、武蔵、陸奥、長門、妙高、足柄、鳥海、波号潜水艦に至るまで六百隻余。全て六百分の一精密モデルで二〇年余の「労作」だ。

「あのゴホンといえば龍角散がスポンサー。毎年会社のホールで『大観艦式』があります。私は再軍備や思想とは全く無縁ですが、夢の島となり13号埋立地の「船の科学館」と聞くと、あれは好きないとポツリ。

いま実益を度外視して、歴史に残った船を作るのが念願。対馬丸、泰東丸、洞爺丸、興安丸、日昇丸…よく知っている名前がつぎつぎと飛びだした。「第五福竜丸を第一に、原子力船むつも作りますか」。福竜丸は五隻作り、展示館のほか、広島・長崎の原爆資料館や焼津等に贈りたい由。今秋製作にとりかかる。

第五福竜丸平和協会第61回理事會決定事項（概略）

- ▼日時 84・7・23(月)午後0時半～2時半 ▼会場 本郷・学士會分館 ▼参加理事 檜山義夫、斎藤鶴子、猿橋勝子、田沼肇、本多喜美。
- 1. 第60回理事會議事録承認
- 2. 活動報告(略)
- 3. 当面の活動計画 (イ)資料室建設計画の促進。田沼理事の対都折衝の報告を了承、都知事(副知事)の要請を強める。新たに三千万円の建設基金を都の認可を得て実施する。(ロ)賛助会員の拡大をすすめる。見学の団体代表にも訴えをおこなっていく。(ハ)写真集「母と子で見る第五福竜丸」の原稿再手入れと最終稿完成を急ぎ正確簡明なものとし10月刊行する。(ニ)ビキニ事件30周年核兵器禁止を願う科学者フォーラム(7・30)の成功のため努力する。(ホ)原爆忌東京俳句大会(8・12)を協賛し協会賞の贈呈等をおこなう。(ヘ)9・23は協会独自の集いはとくに予定せず、展示館前でおこなわれる諸行動への協力、静岡・地元の諸行事へ協力する。
- (ト)次回理事會は9月17日予定。
- 4. 議事録署名人選任(略)